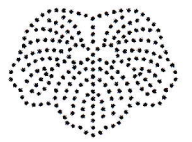


「リゅうま伝」は高野の分身がお客様のところへご挨拶に伺う。という気持ちでお届けしています。



リゅうま伝

66号

2025年5月26日
高野 竜馬

「高校時代の黒歴史」

毎日楽しげに高校へ通う娘が微笑ましくも、どこか羨ましく思える高野です。

というのも自分の暗黒の高校時代と比べるとさぞうか。

私は高校入学して数日後、隣の席のA君とちょっとした話の食い違いがおきます。その後、またたく間にクラスの人気者になった。

A君から村八分にされたのです。何が理由なのか、さっぱりわかりません。理由は誰から相手にもわかりません。

授業でボーッとしてると先生に当てられ、「続きを読みましょう」と命じられてもど、かわからず回りに視線で助けを求めても誰も助けにくれず、授業が終わるまで立たされたこともありました。

身体的なイジメは無かったものの靴を隠されたりとか、陰湿なイジメが続きました。

またある時、ズボンの腿がチークの粉で白く汚れていました。

どこで汚したのか見当がつかず机(天板)の裏を触ってみると

チークで白く塗りたくっていました。

誰も居なくなった教室で机を逆さにすると「死ぬ」と赤い文字。

そんな訳で全く良い思い出の無かった高校生活前半。

ところが2年の冬あたりから風向きが変わるのです。気が

づく、いつも大勢の友達に囲

まれていたA君は一人孤独で登下校するようになり、その頃か

ら周りの態度が軟化してくるのを感じていました。

その理由が分かったのは3年になって初めて友達(T君)が出来たことでした。彼から偶然、A君の話を知ったのです。

噂やけどA君は少しでも自分の

の氣にくわいがあることと

友達を粗末にしよう、たらしいね

それである晩、みんなから袋衣

叩きにされたらしい。

それを聞いてから不思議と

A君に対する恨みが消えてい

きました。むしろ私のことを知

ろうともせずA君の指示に流

された、その他大勢の集団心

理に嫌悪感を覚えました。

一方、T君は誰にも話しかける

ことが出来なくなっていた私に

まるで転校生を見るかのよう

に話しかけてくれたのです。

どこに住んどると？出身中学

は？好きな音楽は？って。

私のことを噂で評価せず、素直に興味関心を持ってくれたことが、とても嬉しかったものです。友達一人で、こうも学校

生活、変わるものかと思いきや、知りました。

この体験以降、環境が新しくなる時、自分が会合の幹事

だ、たりする時は、T君のよ

うに、相手に関心をもって話

しかけることを心がけてい

ます。すると徐々に環境の

変化が苦ではなくなってい

きました。

毎日元氣に登校する娘を

見て、忘れかけていた黒歴史

を思い出して、人間関係構築

のコツを学ばせてもらった

T君に改めて感謝しているところ

です。



たかの財形事務所

〒819-0374 福岡市西区千里 707-13

☎090-3407-2123

<https://www.takanozaikai.com> メール fp.takano@gmail.com